

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 翠山会 グループホーム なかよし
(ユニット名)	なかよしB
所在地 (県・市町村名)	長崎県佐世保市赤崎町81-3
記入者名 (管理者)	川尻 直子
記入日	平成 19年 11月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(■ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着型サービスの意義を盛り込んだ理念をつくり地域との関係性強化を図っていくようにしている。また全職員がその意義を理解している。</p>	○	<p>地域の中でその人らしく暮らし続けていけるように、さらに全職員で支援できるよう取り組みを続けていきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>目につく所に理念を貼って共有できるようにしている。また日常の支援においても理念に基づいて「元気で 楽しく ゆったりと」暮らしていただけよう指導を行っている。</p>	○	<p>理念を反映した介護が行なえているのか、ミーティングでも再確認しながら日々の介護に生かしていきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ホーム便りや運営推進会議等で理念をお伝えし、理解していただけるような取り組みを行っている。</p>		
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>気軽に立ち寄っていただけるよう玄関先には季節の花々を植え、近所の方への挨拶も心がけている。また「子ども110番」の家になっており、小学生の子どもさんがトイレを借りたり、お茶を飲み立ち寄ってくれている。</p>	○	<p>ホームの行事(バーベキュー等)に隣近所のかたの参加を呼び掛けることが出来ればと思います。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地区の公民館まつりにも参加させていただき、利用者の作品展示もさせていただいている。</p>	○	<p>小学生の社会科学習の場としてホームを利用いただいております、小学生と利用者との交流の機会となっている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	随時、地域の方々からの認知症の相談を受けられるよう運営推進会議でも啓蒙に努めており、また地域外よりの電話等の問い合わせにも対応できている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員全員で自己評価や外部評価に取り組んでいる。またその意義を理解できており、外部評価の結果を職員にも伝え、サービスの質の向上につながるよう意見交換を行っている。	○	外部評価の結果を生かし今後のサービスの質の向上に努めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際、グループホームの地域での位置づけなどを報告し、外部から見た感想や意見を聞きサービス向上に活かすようにしている。	○	前年度の外部評価の結果を運営推進会議でも公表していき、更なる要望や意見を引き出してサービスの向上に努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護支援センターの職員との交流はあるが、市町村担当者と向き合う機会は少ない。	○	積極的に市町村担当者と意見交換ができる機会を運営推進会議以外でも見つけていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度の新聞資料の回覧等を行ない制度の理解に努めている。今のところ利用を希望されている利用者はおられない。	○	研修の機会があれば積極的に学んでいくようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講演や研修に参加し、学ぶ機会を持っている。言葉使いも折に触れ、注意していくようにしている。	○	お互いに声を掛け合い、注意し合ってサービスの向上に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居、退居及び契約内容(利用料)の変更時には、利用者やご家族に対して十分説明を行ない、また意見を聞き、理解、納得をしていただいている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>会話の機会を個別に持ち、不満や要望を引き出すように心がけている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月ホーム便りを発行し、生活状況や職員の異動のお知らせをしている。面会時に個々の暮らしぶりをお伝えし、また必要に応じ健康状態等も電話等でお知らせしている。お預り金の入金の際にはかならず出納帳のチェックと金額の確認をしていただき、サインをいただいている。</p>	<p>さらに利用者家族との信頼関係を築いていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱を設置している。また面会時にはご意見ご要望をおたずねしている。</p>	<p>○ ご意見、ご要望に対しては管理者が職員に周知徹底する体制が出来ている。更なるサービスの向上につながるよう努めていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回以上、職員会議を行っており意見を反映できるよう努めている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じ管理者または職員がすぐに対応できるようにしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>退職者や新人職員の利用者、ご家族への挨拶や紹介はきちんと行っている。</p>	<p>○ 利用者へのダメージがないよう努めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内外の研修を受けられるよう勤務変更なども行ない、また声かけも行ない、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。研修報告書も閲覧にて閲覧できるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>全職員が研修を受けられるようこれからも努めていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の活動を通して、他のホームの職員との交流や意見交換を行っている。また勉強会の参加でサービスの質の向上にも努めている。</p>	<p>○</p> <p>交流を通して得られた意見や知識を生かしサービスの質の向上に努めていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>親睦会などを開き職員同士のコミュニケーションが取れるようにしている。個々に相談がある時はそのつど対応している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>良い面を伸ばせるような声掛けを行っている。資格取得に向けた支援も行っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談で生活状態や生活歴を把握するよう努め、本人の思いを共有し安心して利用いただけるよう心がけている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学訪問時などに気軽に要望を言っただけのような声掛けを行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援センターや他の事業所にも連絡を取るなどの対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人、ご家族一緒に見学に来ていただき、職員ばかりでなく他の利用者とも接していただき馴染んでいただけるようにしている。	○	利用開始の時期についても、ご本人、ご家族の希望を取り入れお待ちしたりもしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で得意な事を生かしていただけるよう個々の利用者の活躍の場を作るよう心がけている。また、ほし柿づくりやつわの皮むきなど若い職員が教えていただきながら取り組んでいる。	○	生き生きと生活し続けられるよう取り組みを続けていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の近況などにも気を配り声かけを行ないつつ気軽に出向いていただけるようお願いしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外泊が無理なかたについても短時間でも外出の機会を持っていただけるよう働きかけを行ない行事への参加を呼びかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望をお聞きし、これまで住んでおられた町内のかたが遊びに来て下さったりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話しをお聞きし良い関係の維持に努めている。またお一人ではぼつんとしておられる利用者がおられた場合そのつど他の利用者にお問い合わせし、いしきしい思いをされないように声をかけていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院退所などされた利用者についてもお花を持って面会に行くなどつながりを保つようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望意向の把握が困難な場合でもご家族よりの情報を得るなど把握に努めている。日々希望の変わられる利用者についてはその時のご本人の気持ちを尊重している。	○	ご本人と気持ちを共有できるようスタッフ一同改めて「尊厳」という言葉をかみしめていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査による情報や入居後にご家族より新たに得た情報について全職員が共有できるよう記載し、説明もしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録に適切に記録を行い、申し送りも確実にやっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント、ケア会議で意見交換を行ない、本人、家族、必要な関係者とも話し合いのうえで介護計画を作成している。	○	ご本人、ご家族の要望がない場合もあり、利用者にとって最善の介護計画になっているのか、日々の様子を観ながら介護を行っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間が終了する前にケア会議を開き、見直しを行なっている。また必要に応じてそのつど本人、家族、必要な関係者と話し合いを行ない新たな計画を作成している。	○	利用者が毎日の生活に困られないよう、また毎日の暮らしを楽しんでいただけるよう変化に即したサービスを提供していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を毎日記入し、申し送りノートにも気づき等の記入を行ない、勤務開始前には目を通しサインを行ない情報を共有し、介護計画の見直しにも役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在は多機能性を活かした支援は行っていないが入居者に医療連携体制を活かした受診や入院の回避、医療処置を受けながらの生活の継続はできている。	○	本人、ご家族の状況に応じて通院など必要な支援を行っている。続けていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の希望に応じ絵本の読み聞かせや絵画教室のボランティアの方を受け入れている。また警察、消防からの協力も得られており、校区の小学校の体験学習の場としても定着している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要な利用者については母体老健のリハビリを受けられるよう支援しており、また母体訪問理美容室の利用送迎も行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて支援センターのケアマネージャーと相談し、本人本位の利用(他の事業所への移行など)が行なえる体制ができている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医と連携し、適切な医療を受けられるよう支援している。必要に応じて専門医やかかりつけ医の受診を家族と協力しながら行っている。	○	本人や家族の希望を大切にしながら受診支援を行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて専門医の受診を行って相談し、支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体の老健の看護師や協力医の看護師に相談できる体制ができている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合でも担当医からの情報は常にもらえる。また可能な限りスタッフが交互に見舞い、不自由な思いや不安な思いをされないよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のありかたについて、ご家族と主治医が話し合いをもたれるような体制が出来ており、その方針を共有し、支援している。	○	早期からの話し合いが出来るよう努力していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医や母体老健との連携がとれており、急変時には24時間対応できる体制ができている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分な話し合いや情報交換を行ない、スムーズに移行できるように支援できる体制ができている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについてはプライバシーの確保の徹底はできている。対応、言葉かけについては気になる時はそのつど指導している。	○	誇りやプライドを損ねることのないようあらためて全職員に声掛けを行っていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	お茶の時間に飲みたいものを選んでもらったりしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、希望に応じて入浴、レクリエーションなど参加いただいている。外出、散歩、買物なども支援できている。	○	十分とはいえない点もあり、希望にそえるよう努力していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	母体施設の訪問理美容を利用しており、送迎支援を行っている。他の理美容室を希望される利用者、ご家族は今のところおられない。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備、配膳、下膳のお手伝い等、生き生きと行なわれている。食べたいものをお聞きし、献立に取り入れたりしている。	○	お手伝いが強制的な仕事にならないよう、声掛けや様子観察に努めている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お好みのおやつのリクエストを出していただき、一緒に作ったりするよう心がけている。お菓子の時間の飲み物の希望もおききしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導の際にはプライバシーに気を配っている。失敗された場合でも居室にて対応し、他の利用者には気づかれないよう心掛けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴を希望される利用者がおられず週3回対応している。希望や体調に応じ、入浴日以外でも清拭やシャワー浴を利用させていただいている。	○	入浴の順番なども希望を取り入れ対応している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の体調や様子に応じて休息を取れるよう支援している。夜間帯ゆっくり休んでいただけるよう室温や寝具にも気を配っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	全職員が利用者お一人お一人の生活歴や得意分野の情報を共有できており、毎日の暮らしに取り入れるように工夫している。必ず感謝の言葉を伝えている。	○	個々の利用者の楽しみごとに合わせた外出支援などにも取り組んでいきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されていないかたもおられるが、外出時のお買物はかならず手渡しし、支払いしていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの季節ごとのドライブ、花見、外食ばかりではなく、近くの公園への散歩や買物支援も行っている。	○	体調に応じて外気浴が出来るよう支援を続けていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望を取り入れ温泉や花見にはホーム全体で出掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お部屋でゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会の報告資料にて全職員が身体拘束について正しく理解しており、また身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1F玄関は、不審者侵入防止の為施錠を行っているがホーム内は自由に出入りできる。外出は同行で行っている。	○	鍵をかけない工夫を全職員で協議し、実践へ向けて努力していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は同じ空間を共有しており、休息時、夜間帯は各居室の見守りを頻繁に行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	管理可能なかたはハサミを手持ちされている。また薬品、包丁は適所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成し研修も母体より行っていただいている。消防訓練も年2回行っている。転倒についてはベットの配置を変えたり個別に防止につとめている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し研修会にも参加し対応できるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回母体老健や消防署の協力を得て避難訓練を行っている。地域の人々にも運営推進会議を通じて協力を働きかけている。	○	色々な場合を想定しての避難の方法等を日頃から全職員で共有し非常時対応できるようにしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時などに現状をよく説明しリスクがあらわれる事をご家族に知っていただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	情報を共有し、異変の発見に努め主治医や管理者に報告、指示をもらう体制ができています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日常の服薬ノートがあり、定時薬以外の薬が出た場合は、申し送りノートに記入し、周知している。また、服薬された事を確実に確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食生活、水分補給、出来る範囲での運動に気を配っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声掛け、見守りにて口腔ケアを行っている。口腔ケア用品は定期的に消毒を行っており、義歯は毎晩ポリドントにつけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事を把握し、日中夜間帯ともご自分からすすんでお茶を飲まれない方については声掛けを行ない、飲水いただいている。献立作成も栄養バランスを考えてある。	○	定期的に母体の管理栄養士に助言、指導をいただいている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、手洗いうがいなどもこまめに行っている。インフルエンザの予防接種も利用者、職員全員行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	保健所の講習会にも参加いただき、まな板、ふきんの消毒もきちんに行っている。食材の購入も考えて行っており、冷蔵庫の点検、掃除もまめに行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には季節の花を植えており、行事の案内ポスターを貼っている。玄関の中には壁新聞を貼っており、立ち寄られる方は立ち止まって見て下さっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やフロアには皆さんで作られた季節感あふれるネームプレートや飾りがあり、日差しが強い時は、レースのカーテンを使用している。	○	飾り付けなどが過度にならないように注意し、居心地の良い共有の空間作りに努力していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーター前や居室にも、他の利用者と一緒に過ごせるようイスが設置しており、思い思いに過ごされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際や入居後、使い慣れた家具や個人の大切な物を持って来ていただいてよい事を説明している。また、お好きな方はお部屋に花壇の花を鉢に移し替えたりして飾られている。	○	個々の利用者が、今までの暮らしの延長を感じる事が出来るように、これからも工夫していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓の開閉や換気扇による換気をこまめに行ない、冷暖房器具による温度調節を行っている。冬場はフロアに加湿器を使用し、湿度を調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーになっており、手摺りを用いて安全な歩行も行えるようになっている。ここの身体機能に応じ、食卓のイスの場所、居室でのベッドの場所等工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室がわからない方には目印をさげたり工夫している。歯ブラシも色を変えるなど工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇や公園にベンチを置いたりして対応している。お元気な方は、ホーム裏にお洗濯物干しに行ってお知らせする。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・食事に关しては特に力を入れバランスの取れた献立作り、季節感が味わえる食材の使用等を心がけている。また昔から伝わる日本の行事（正月、盆、彼岸、節句等）は大事にし、その時々合った食事を提供し楽しんでいただいている。
- ・個々の身体・精神能力を低下させない為、レクリエーション、手工芸、学習療法、音楽療法などを取り入れ楽しみながらレベル低下を防ぐ支援を行っている。
- ・花見（桜、バラ、コスモス等）、温泉、外食、ドライブなど外出の機会を多く持つようにしている。